

(2) 研究データ基盤の整備・国際展開

○目指すべき将来像

- ・国益や研究分野の特性等を踏まえて、オープン・アンド・クローズ戦略³⁵を考慮し、サイバー空間上での研究データ³⁶の保存・管理に取り組み、諸外国の研究データ基盤とも連携して巨大な「知の源泉」を構築し、あらゆる者が研究成果を幅広く活用
- ・その結果、所属機関、専門分野、国境を越えた新たな協働による知の創出が加速

○目標

<研究データ基盤及びリポジトリ³⁷の整備>

- ・機関リポジトリを活用した研究データの管理・公開・検索を促進するシステムを開発し、2020年度に運用開始
- ・我が国の研究開発活動の自律性の確保と国際的なオープンサイエンスの推進のため、国際的な研究データ基盤の構築に向けて、オープン・アンド・クローズ戦略を考慮しつつ、外国政府、国際機関等とデータの相互運用などを含む戦略的な連携を推進

<研究データの管理・利活用についての方針・計画の策定等>

- ・研究成果としての研究データの管理・利活用のための方針・計画の策定³⁸を促進
- ・これらの方針・計画に基づき公的資金による研究データについて、機関リポジトリをはじめとするデータインフラで公開を促進
- ・公的資金による研究成果としての研究データについては、データインフラを通して機械判読可能性と相互運用性を確保するとともに、公開する研究データについては諸外国の研究データ基盤との連携を促進

<人材の育成及び研究データ利活用の実態把握>

- ・研究データの利活用を図るため、研修教材の活用を促進するとともに、実態把握を行いながら、研究者や研究支援職員の意識を向上

① 実施状況・現状分析

これまで、各種のガイドラインを策定するとともに、研究データの管理・公開・検索を促進する研究データ基盤システムである「NII Research Data Cloud」（以下「研究データ基盤システム」という。）の開発を行ってきた。今後は、引き続き、2020年度内の本格運用に向けて、システムの整備を進めるとともに、同システムの運用に不可欠なガイドライン等の整備を加速する。

<研究データ基盤及びリポジトリの整備>

- 研究データ基盤システムについては、文部科学省が主体となり 2020年度内の本格

³⁵ データの特性から公開すべきもの（オープン）と保護するもの（クローズ）を分別して公開する戦略。

³⁶ 研究成果（論文等）の根拠となるものを含む。

³⁷ データインフラのうち、電子的な知的生産物の保存や発信を行うためのインターネット上のアーカイブシステム。

³⁸ 研究データの管理・利活用のための方針については国研が2020年度末までに策定、計画については競争的研究費による研究実施者が策定することを要請する制度を2021年度予算における公募までに、各府省・研究資金配分機関において導入。

運用に向けて開発を進めている。

＜研究データの管理・利活用についての方針・計画の策定等＞

- 内閣府(科技)は、2018年6月、国研におけるデータポリシー策定を促進するため、「国立研究開発法人におけるデータポリシー策定のためのガイドライン」を策定し、また、その解説資料を2019年4月に策定した。さらに、内閣府(科技)は「研究データリポジトリ整備・運用ガイドライン」を2019年3月に策定した。
- データポリシーを法人全体で策定した国研は7法人³⁹となった。また、競争的研究費制度でデータマネジメントプランなどを導入済みなのは、4府省・機関であり、昨年と変化はない。
- 2019年2月に内閣府(科技)に「研究データ基盤整備と国際展開ワーキンググループ」を設置し、2019年6月に我が国全体の研究データマネジメントに関する戦略としての研究データの管理・公開・検索のためのグランドデザインと関係するガイドラインを策定するために、検討を行っている。

＜人材の育成及び研究データ利活用の実態把握＞

- 研究データの利活用を図るための研修教材については、2018年8月に公開した。

② 目標達成に向けた施策・対応策

＜研究データ基盤及びリポジトリの整備＞

- 国の各機関において、研究者が信頼して研究データを保存・管理できるためのリポジトリの整備を推奨する。【全府省庁】
- 研究データ基盤システムは、文部科学省が主体となり、2020年度内の本格運用に向けて開発を進める。【文】
- 文部科学省が主体となり、全文データベース⁴⁰に登載された論文と識別子⁴¹を付与した研究データを紐付け、研究データを管理・公開するシステム(J-STAGEの改良)の開発を2019年度内に行う。【文】
- 公的資金による研究活動により生み出された研究データの利活用とそれによる先進的な研究マネジメント支援を促進するため、ムーンショット型研究開発制度において、先行的に研究データ基盤システムの活用を図るなど、先進的なデータマネジメントを推進する。【科技、文、経】
- ドメイン語彙策定への関係機関の参画等を通じ、研究データ基盤システムと分野間データ連携基盤との連携を図る。【科技、文】

＜研究データの管理・利活用についての方針・計画の策定等＞

- 研究データの管理・公開・検索のためのグランドデザインを踏まえ、基盤構築や体

³⁹ NIMS、NIED、JAMSTEC、農研機構、国際農林水産業研究センター、森林研究・整備機構、NIESの7法人。JAXAでは、法人内の研究所である宇宙科学研究所でデータポリシーを策定している。

⁴⁰ 論文等の書誌(タイトル、著者名、発行年等)のみでなく、全文を登載し、閲覧のため提供する情報の集まり。

⁴¹ 研究成果に対し、それを一義的に識別し、国際的に通用するデジタル情報。

制整備等に係るガイドラインを策定するとともに、データマネジメントプランで要求すべき事項等を取りまとめる。【科技】

- 「国立研究開発法人におけるデータポリシー策定のためのガイドライン」に基づき、国研においてオープン・アンド・クローズ戦略を踏まえたデータポリシーの策定を推進する。【全府省庁】
- 国研、大学等におけるデータリポジトリの整備・運用に当たっては、「研究データリポジトリ整備・運用ガイドライン」等を参考に、研究データの保存・公開等を適切に進める。【全府省庁】
- 各府省、研究資金配分機関が所管する競争的研究費制度において、データマネジメントプランの策定を研究実施者に求める仕組みの導入を進める。【全府省庁】
- 我が国の研究活動の自律性の確保とオープンサイエンスの推進のため、G7の枠組み等を活用し2019年6月に開催したワークショップでの結果も踏まえ、EU等の対応するシステムとの相互運用性を確保する等の提携に向けた検討を行う。また、国際協力の下、論文や研究データの寡占による研究開発活動への弊害を防ぐための対策を検討する。【科技】
- 内閣府（科技）は、学術の発展や研究成果の再現性を高めること等に資する情報の質の管理やコミュニティ間の共有等について、学問分野の特性や国際的動向を踏まえつつ、我が国の方向性に関するアカデミアの立場からの検討との連携を図る。【科技】

＜人材の育成及び研究データ利活用の実態把握＞

- 国研、大学等において、研究データマネジメントに必要な人材の育成・確保を推進する。【全府省庁】
- 研究データ利活用の国内外の動向の調査や優良事例の収集等を2019年度以降継続的に行う。【科技、文】